

手書きのPOP

「わあ何コレ！全然色気の無い文字。これじゃあ誰も買ってくれないよ」と、私の書いたPOP（オススXの旨を書いたカード）を見て会社の同僚が叫んだ。POPが下手なのは自も承知。でも改めようと言われて恥づかしくなった。

私は本屋さんにも本を置いてもらう営業もしている。その折、販売促進のために「うちの本が目立つように！」とPOP貼って下さい！！と手書きのPOPをふ持ちする。しかし、だいたい失笑されて、「機会があれば使わせて頂きます」と奥へしまわれることになった。多分、いことか。

さすがに「かえって逆効果かも」と、しばらくPOPを書くことを控えていたのだ。じ、徐々に、「これはいい本だ！是非売りたい！」と思う商品にめぐりあえて、一念発起もう一度書くことにした。

いろいろなお店のPOPを見て、「文字に丸みがあると目をひく」とか、手書きのものも観察して、思考錯誤して何枚も書き残しておいた。

そんな中、私のPOPを貼って下さる本屋さん。結果は：なんと貼った後、売上が倍増！POPを貼った効果が出たんですかね。と喜んでいると、「えうですね。とても心がこもっていますよね。：かえってこの字が、共感してもらえろのかも少し残念ね」と、

店員さんから笑いかこぼれた。不思議と「挨拶」とは思わず、店員さんも何かを感じてください。だから飾ってください。ただ温かい気持ちに帰った。これからも下手なPOPを書いていきます。できるだけ、もつと多くの人々の心に届くように。